

一般社団法人 広島青年会議所

2018年度 理事長所信



【基本理念】

彩り溢れる「円」な広島の創造

【基本方針】

- 1、人と組織がSHINKAする
- 2、まちがSHINKAする

【スローガン】

Positive Change

～はじめに～

1950年、広島青年会議所は「郷土の復興と経済の発展は我々の手で成し遂げる」と創立されました。当時、焼け野原となった広島の復興、経済成長が急務であったことは間違いありません。ありとあらゆるモノがなく、モノがないことにより希望も未来も見いだせなかった当時から、経済成長を遂げた先人達の努力は私たちの想像などでは計り知れないものであったことは容易に想像できます。私たちはその長い年月の上に今があることを絶対に忘れてはいけません。

設立当初と今の目指すべき「明るい豊かな社会」は同じでしょうか？

私たちはこれまでの長い歴史の中で創始の「志」を受け継ぎながらも社会・経済・国際状況が常に変化する中で、さまざまな側面に於いてその時代にあった理想の社会の実現に向けて、変化を遂げてきました。

現代の「明るい豊かな社会」とはいったいどのような社会でしょうか？

私たちは、そのイメージをしっかりと共有しなければいけません。2018年度の私たちが目指す社会は「円」でありたいと考えています。歪みのない円はまさに調和がとれた理想の社会といえます。モノや情報が、組織を介さず、個人と個人の間で、自由に行き来することが可能な流動性の高い時代となった今、私たちが社会に貢献していくためには、さまざまな団体や世代・立場の多様性を認め、運動を展開していく必要があります。

私たちは今の時代との調和がとれた運動を展開し、これまで同様に変化の歩みを止めてはなりません。理想を探求しながらさまざまな側面より変化を遂げることは私たちに課せられた使命です。変化は必ずしも進化を伴うとは限りません。しかし、進化は変化なくしてはありえません。私たちが次代を創っていくのです。未来への進化を遂げるべく、常にポジティブチェンジしていきましょう。

【運動方針】

SHINKA

本来、進化という言葉は長い年月を通して語られるべき言葉です。2018年度は未来への進化に向けて、以下の方向へ変化する運動を展開していきましょう。

1、深化（継承）

「型があるから型破り。型が無ければ、それは形無し」といった言葉があるように、運動をより深めていくためには、現状を正確に捉えることはもちろん、まずは私たち一人ひとりがそこに至った経緯を理解することが重要です。広島のみちや組織に置き換えてみると、私たちはどれだけ理解しているのでしょうか。過去を学び、理解した上で、より深めていかなければならない本質を見極め、継承していきましょう。

2、伸化（発揮）

物事には何事も長所と短所があります。短所を改善することはもちろん大切ですが、良い変化を巻き起こすためには、広島のみちや組織の現状を見極め、長所を更に伸ばし、個性を発揮していきましょう。

3、新化（挑戦）

これまで諸先輩方が「明るい豊かな社会」に向けて常に挑戦されてきたように、新しいことへ失敗を恐れず挑戦することは最も大切な心です。広島のみちや組織ならではの独自性のある新たな価値を創造することに挑戦していきましょう。

1、人と組織がSHINKAする

「ポジティブチェンジ」はまさに青年会議所運動の根幹です。私たち自身の組織内で変化を巻き起こせなければ、広島のまちに変化を起こすことはできません。だからこそ、まずは組織内で運動を起こし「円」な広島青年会議所を創りましょう。

広島青年会議所に誇りを持っていますか？

日々の活動に自信を持っていますか？

私たちは自社や家族の支えによって、活動させていただいています。その支援に感謝し、交流する場を設けることは大切ですが、何よりも大切なものは、支えてくださっている方への期待に応えることではないでしょうか。その期待はさまざまですが、まずは私たちが自信を持って青年会議所活動を行い、周囲にポジティブな姿を見せることが重要です。

私たちは「まちのリーダー」ではなく「まちのリーダーになっていかなければならない人」と考えています。そのために私たちは、常に全ての活動の中で自身の成長や気づきを求め続け、いかなるときも学ばせていただくという姿勢を持ち続ける必要があります。青年会議所は「人生最後の学校」と例えられます。私たちは青年会議所活動を通して多くの「気づき」の機会をいただいています。

しかし、その機会を自身の「気づき」として捉えることができるかどうかは私たちの覚悟次第です。自分を「築く」ことは周囲に存在する機会にいか「気づく」かが大切です。日頃より、支援していただいている方たちの期待に応えるためにも「私たちは知っていることより、知らないこと」の方が多いという謙虚な気持ちを持ち、一つひとつの機会を我が事と捉え、自身にポジティブチェンジを起こしましょう。

私たちは見られています！

私たちが誇りと自信を持って活動を行うことは、会員拡大、広報活動にも繋がります。普段の行動、言動はもちろんのことですが、メンバー全員がもっと自身の活動に誇りと自信を持たなければ、地域に広島青年会議所が認められることはありません。私たちの活動を直に触れていただく場も必要ですが、一人でも多くの賛同者、同志を得るためにも、私たちがまずは率先して範を示しましょう。さらに、広島青年会議所が創始より大切にしていることの一つに「気配り、心遣い」があります。「遠慮は無用、配慮は必要」という言葉があるように、40歳までの若い団体だからこそ、情熱が溢れる中でも他者に対して、気配りができる人を目指しましょう。

広島青年会議所は、厳格な組織規程とルールによって運営されています。これは私たちが誇りにすべき全ての活動の原点になるものです。

規程に例会への出席義務が明記されているから、私たちは出席するのでしょうか？

規程やルールを基に忠実に活動することは大切なことですが、その本質を理解していなければ、それは「活動させられている」に過ぎません。私たちが一つひとつの本質を理解し、自らが「活動している」に変えていかなければなりません。形式や前年踏襲主義に拘らない、本質に拘った2018年度の「型」を創っていきましょう。

私たちは特別会員、行政、多くの諸団体や企業の皆さまと共に歩みながら、活動させていただいています。その輪をより大きな円としていくためにも、これまで同様にお互いの意見を交換できる場を設けることや新たな賛同者との協力体制を確立していきましょう。

組織の進化は外部への運動推進力の向上に繋がります。まずは私たち自身をポジティブチェンジし、元気溢れる団体を目指しましょう！

2、まちがSHINKAする

広島を紐解いていくと自然、歴史・伝統、平和、現代の4つのパートに構成することができます。これまで広島青年会議所はまちづくりに於いてさまざまな分野、対象者に運動や提言を発信し、まちや市民にポジティブチェンジを促して参りました。2018年度は多くの人に関心を持つ事業よりもたった1人の今後の人生を大きく変えるインパクトのある運動を展開していきたいと思えます。

事業は徹底的な調査からそのパートにおける本質的な課題の抽出が全ての基本です。そして、抽出された課題に対して、SHINKAの運動方針に照らし合わせ、共存、調和のとれた国際平和文化都市としてのあるべき姿をまず見定めていきましょう。2018年度は、それらの取り組み方法の一つとして、長期的に多くの市民が訪れ運動や交流ができる事業、学校・まちぐるみで運動に参加する事業、持続可能なシステムを提案・構築する事業、景観をつくる事業、人の心に直接響く事業を発信していきたいと思えます。

広島は緑豊かな山々、風光明媚な瀬戸内海、「水の都」といわれる6つの川が流れる豊かな自然に恵まれたまちです。昔の日本における自然共生の礎は、生活を営むための農林漁業としての生産システムでした。しかし、現代では、エネルギー革命や経済のグローバル化、産業構造の変化などにより、人と自然の関係は大きく変化してきています。これからの時代にあった自然と都市が調和した「円」なまちを目指しましょう。

過去からの歴史を継承することは、現在の立ち位置を把握し、さらには未来の方向性を見定めていく上でも重要なことだと考えます。私たちは自分たちが住み暮らす地域固有のス

トリーや歴史・文化をどれだけ継承しているのでしょうか。現在、広島のみちも観光資源として、これまで紡がれてきた歴史や文化に対する関心が高まっています。建造物などの資源だけではなく、広島に眠る歴史・文化を掘り起こし、市民が歴史・文化を継承した「円」なまちを目指しましょう。

私たちの定款第3条には「国際的理解及び親善を助長し、世界の繁栄と平和に寄与すること。」と記載されています。私たちは、これまで「祈る平和」ではなく、未来を見据えた「創る平和」を提言してきました。私たちから平和を創造していくためにも、今こそ、他者に対して行動することが必要ではないでしょうか。国際平和文化都市の市民が平和のために行動する「円」なまちを目指しましょう。

現代における広島のみちづくりは賑わいの創出と活性化、そして、回遊性の向上が必要だと考えています。現在でも、賑わいを創出するために、それぞれの地区や場所で取り組みは行われていますが、それ自体が単一で終わってしまえば、それ以上の拡がりはありません。まちの活性化に向けた持続可能な仕組みを戦略的に創出し、賑わいと回遊性のある「円」なまちを目指しましょう。

「円」なまちに住む市民のライフスタイルとはどのようなものであるべきでしょうか。ライフスタイルが多様化した現代社会だからこそ、多くの市民のライフスタイルに合わせた誰でも参加できる運動も必要だと考えます。日々の生活の中から社会・国際問題に取り組むヒロシマスタイルが確立された「円」なまちを目指しましょう。

事業は私たちが主語ではなく、まちや市民が主語でなければいけません。その上で、ニーズの大きさ・クリアな目的・実施のタイミングといったポイントを踏まえた事業が展開された時、私は持続可能な素晴らしい成果を得る運動が展開できると確信しています。

私たちはこれまで自らが主となり事業を実施する「青年会議所主導型」の事業を多く開催してきました。これまで開催してきた「広島キッズシティ」や「熱い情熱をもってまちのために活動している青年を顕彰する」事業などからも分かるように、他にも志高くまちづくりを行っている団体は多く存在します。広島のみちの課題解決に向けて最大限のインパクトを与える事業となるのであれば、そのような団体との協働や私たちがインターメディアリーとして互いの団体の長所を掛け合わせた事業を展開することも必要だと考えます。私たちは上部組織や親会もない独立した法人です。多様な組織がまちづくりに参加できる環境を創ることも私たちだからこそできる新しい役割ではないでしょうか。

インターネットの普及により、情報は瞬時に入手することができ、そのスピードは昔に比べて格段に向上しています。しかし、その一方で、表面で得た情報だけで判断し、それが本

当に本質を踏まえた情報か真偽を確かめるための行動力が弱まってはいないでしょうか。

行動力を持って、広島のマチをポジティブチェンジしていきましょう！

～終わりに～

100年後、「世界の中心都市、誰もが訪れたい、住みたい、彩り溢れる調和のとれた広島」があった。それは、2018年度に広島青年会議所のメンバー全員がポジティブに行動を起こしたからだ。当時、広島青年会議所はまちを構成する自然、歴史・伝統、平和、現代に青年会議所でしかできない強烈なインパクトを与えた結果、まちは市民・行政・企業・団体が「円」な社会に向け、一つになった。

その当時のメンバーはその後、真の「まちのリーダー」になり、今日の礎を築いてくれた。

一世代が終わり歴史となった時、そのように言われたいと思いませんか？

「新しい価値」をいかに創造していくかということが問われている時代、今、私たちの真価が問われています。

J Cしかない時代からJ Cもある時代。

それは時代がそうさせたのでしょうか？

私たちがそう言われるようになったのではないのでしょうか？

青年会議所はまちに対してポジティブな変化を与えることができる人財を輩出しなければいけません。これは青年会議所最大の使命です。私たちは今一度、社会の一員として青年会議所メンバーとして本質と現状を見つめる必要があると考えます。

唯一無二の存在であり続けるには私たちの真価を示さなければいけません。

今こそ、誰からも必要とされる真価を示そう！

そのためには常に本質を見極めポジティブに変化しなければなりません。

変化を楽しもう！

彩り溢れる「円」な広島の創造に向けて！